

病院変革人材育成

「YCU病院経営プログラム」

令和4年度 事業報告書

- ・文部科学省
「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択事業
- ・厚生労働大臣指定
専門実践教育訓練講座
- ・文部科学省
職業実践力育成プログラム認定



都市型地域医療を



先導する



横浜市立大学

横浜市立大学医学研究科・国際マネジメント研究科
附属病院・附属市民総合医療センター

伝統と革新の、その先へ
1928 - 2028

協賛
横浜市大学区医師会

文部科学省選定「都市型地域医療を先導する病院変革人材育成」採択事業

横浜市立大学「YCU病院経営プログラム」事業概要

学長ごあいさつ



横浜市立大学学長
相原 道子

横浜市立大学は、附属病院、附属市民総合医療センターという2つの大規模病院を有し、これまで高度な先進的医療のみならず、政策的医療提供など地域の安定的な医療に寄与してきました。一方、日本の社会は待った無しの少子高齢化社会に加え、令和2年からは新型コロナウイルスのパンデミックに見舞われ、地域から求められる医療はさまざまな課題を抱えつつ、急速に変化しています。大学病院においても例外ではなく、あらゆる変革が求められています。

そのような中、横浜市立大学は、2017年度文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に採択され、2018年度から社会人大学院履修証明コースである、「YCU病院経営プログラム」を開設いたしました。医師、看護師、その他コメディカル、事務管理職、医療行政職という幅広い方々を対象に年々履修生を増やし、2022年度は25名の履修生をお迎えすることができました。実践的なケーススタディや各自の課題に取り組む特別研究を中心とし、医学研究科、国際マネジメント研究科、データサイエンス研究科、附属病院、附属市民総合医療センターの5拠点で展開しています。修了生はそれぞれの部署において、研究や学習の成果を病院経営に活かすとともに、このプログラムが毎年公開しているシンポジウムや公開授業等も利用して、ネットワークを広げています。

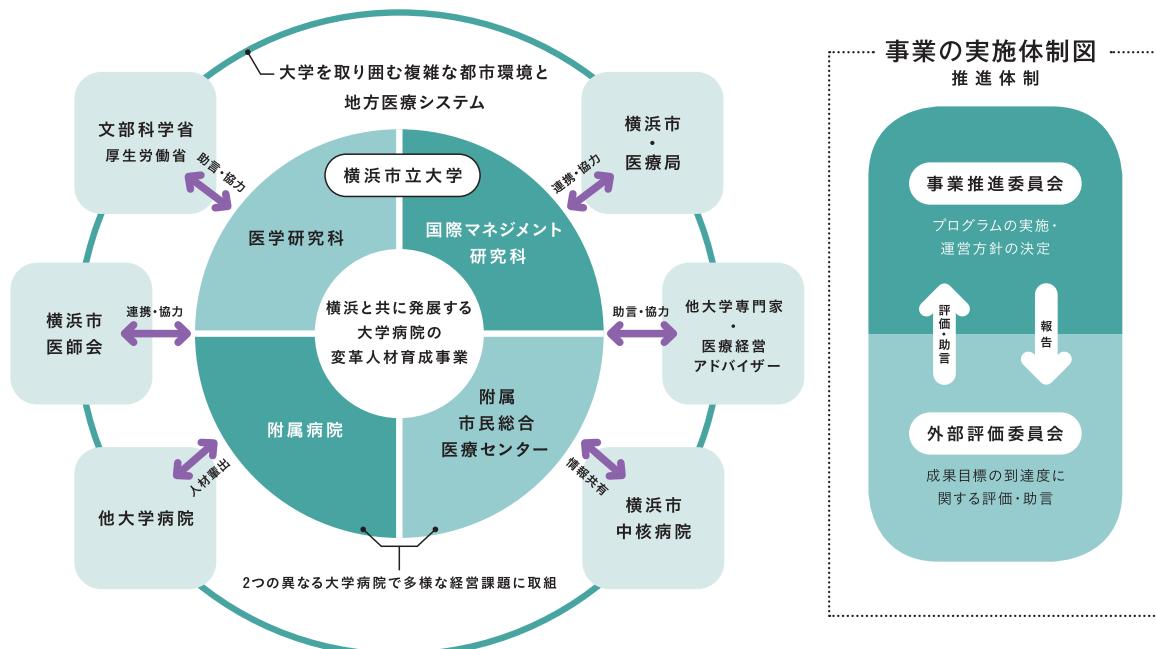
なお、文科省補助金は2021年度で終了しましたが、本プログラムは文部科学省職業実践力育成プログラム(BP)および厚生労働省の専門実践教育訓練給付制度の対象プログラムとして認定され、今後も継続できることとなりました。

次世代を担う新たな病院経営人材が育っていくよう、横浜市医療局や横浜市医師会、病院協会等とも連携しながら、大学として強力にプログラムを推進していきます。

事業概要

都市型地域医療を先導する、病院変革人材を育成するために

横浜市立大学内体制図



事業責任者ごあいさつ



急激な高齢化に加え、2020年度からは新型コロナウイルスのパンデミックにより、医療は様々な新たな課題に向き合っています。一方、医療・介護財源である社会保障費や税金の扱い手は減少の一途をたどり、医療提供や人材育成にも、新たな発想が求められます。

本プログラムは、e-learning、研究会、シンポジウム、ケースディスカッション、特別研究など多彩な教育機会を用いて、大学病院を始めとする医療機関の健全経営を担保し、あるいは政策立案に資するために、下記の資質を備えた人材の育成を行います。

◇ 医療安全や病院管理等の基本的資質に加え、地域毎の医療環境の中での自院の戦略的ポジショニングを考え、病院を変革する力

◇ 地域の医療・介護システムを構築していく中でリーダーシップを發揮し、病院単独では解決できない経営問題をその地域の行政・医療・介護の扱い手、住民等と協働しながら解決する力

横浜市立大学附属病院
病院長 本事業責任者

後藤 隆久

プログラム実績

履修生受入実績

年度	募集数	履修生数
平成30年度	10名	15名
平成31(令和1)年度	10名	15名
令和2年度	12名	18名
令和3年度	13名	25名
令和4年度	25名	25名
令和5年度	25名	26名



シンポジウムの様子(平成31年4月)

開催シンポジウム、公開授業

年度	内容	参加者
平成29年度	キックオフシンポジウム 「大学病院と地域の病院・診療所との連携と機能分担都市における医療の課題と将来の方向」	109名
平成30年度	公開シンポジウム 「更なる効率化と質保証に対処していくために!－医療ICTの機能拡充と活用－」	115名
平成31(令和1)年度	公開シンポジウム 「修了生による地域医療・病院経営改善に向けた提言」	50名
令和2年度	①公開授業 「横浜市大附属市民総合医療センターの経営改革」 ②公開シンポジウム (1)「働き方改革と医療政策」 (2)「COVID-19パンデミックの中で 病院と地域医療をどう経営するか?」	①44名 ②(1)91名 (2)220名
令和3年度	①公開授業 「ポストコロナの横浜大学メディカルセンター」 ②公開シンポジウム 「ポストコロナの医療経営」	①111名 ②128名
令和4年度	公開シンポジウム 「コロナ対策と今後の地域医療連携のあり方」	100名

大学病院長・幹部候補のライセンスとしての履修証明プログラム

「YCU病院経営プログラム」内容※

大学病院長候補者、病院長を補佐する医師・医療従事者、看護管理職候補者、事務管理職候補者、自治体関係者などを対象にした1年間(最大2年間)のコースです。

※「履修証明プログラム」は、学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、大学が主として社会人向けに体系的な教育プログラムを開設し、その修了者(120時間以上の履修を完了する者)に対し、学長名の履修証明書を交付するものです。

教育プログラムの育成人物像

1

超高齢社会に対応する日本の医療政策、及び各自治体の実態を理解している。

2

高度急性期医療を使命とする大学病院が今後取るべき戦略や経営管理の方法について理解している。

3

複雑な都市環境における医療・介護・福祉の担い手と連携しながら病院経営を実行・助言できる。

履修プログラムの特徴

安全管理学・ガバナンス

安全管理学は、患者取り違え事故という、日本の医療安全の原点を経験した横浜市大ならではの、安全管理の理論と実行について学びます。ガバナンスは、ケースディスカッション方式で、病院教職員のやりがいをいかに高め、病院の理念や行動規範を浸透させていくかを学びます。



ケースディスカッションの様子

特別研究:ケーススタディ

特別研究は、履修生各人が持っている経営課題について、コーディネーターのマンツーマンの指導を受けて、解決法の提案を行います。これに加え、世界の一流ビジネススクールで用いられているケース教材等を使って、リアルな病院経営についてクラス討議を通じて学びます。これらを通して、履修生が本プログラム修了後も様々な経営課題を解決する基礎力を培うことを目指します。



みなとみらいサテライトキャンパス

Pick Up



Brush up Program
for professional

本プログラムが、文部科学省の職業実践力育成プログラム (BP= Brush up Program for professional)として認定されました!

職業実践力育成プログラム認定制度とは、大学・大学院等におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」(BP)として文部科学大臣が認定するものです。

QRコードをかざすと
WEBサイトで
詳細をご覧いただけます



必須科目内容

医療政策・経営学

15時間

政策学については、医療における管理者の視点を養成することを目的として、病院、保険者、横浜市、神奈川県、国の5つの視点から包括的に医療政策学を学ぶ。経営学では、病院経営の理論と実際にについて、DPC及び原価情報の活用による経営改善や医療情報・医療データの二次利用等に触れ、病院が地域の中で今後取るべき戦略的ポジショニングや経営管理方法について学ぶ。

安全管理学・ガバナンス

15時間

安全管理学では、高信頼産業に学ぶ安全管理、医療事故から学ぶ安全管理、レジリエンス、コミュニケーションについて学ぶ。ガバナンスでは、リーダーシップ、動機付け、コンプライアンスなどについて実際の病院経営に即して学ぶ。

特別研究

45時間

特別研究(45h)・ケーススタディ研究・演習。大学病院の現場における、大学病院長主導による経営改善実習を行う。

選択科目内容(2科目選択)

①臨床統計学

22.5時間

臨床試験でプロトコールを作成する上で必要な統計的手法を学ぶ。臨床研究で実際に用いられている統計手法(検定方法や回帰モデル)を習得する。解析ソフトを用いて講義で得た知識を実際のデータ解析に活用するための実習を行う。

②医学教育学

22.5時間

人材育成のための能動的教育手法の実践と専門職連携の観念と教育手法の習得を目的として、イントロダクションの講義後、履修者と共にディスカッションを行う。

③看護管理学

22.5時間

看護管理の理論と方法を概観し、保健・医療・福祉システムの変化における看護管理上の課題を明確にし、看護管理者、CNSとして効果的に組織をマネジメントするために必要な知識を学習する。

④看護政策学

22.5時間

看護の質向上に向けて求められる看護政策、制度の理念、機能、意義ならびにその展開に必要な知識と技法について今日の社会的背景も踏まえて学ぶ。

⑤ビジネス・マネジメント

22.5時間

マーケティング、経営戦略、人的資源管理、管理会計、サービス・サイエンス、ゲーム理論など経営学/経済学の基礎をオムニバス形式で学びます。

⑥ソーシャル・イノベーション

22.5時間

組織を取り巻く社会的な課題について理解を深め、行動経済学やソーシャル・マーケティング等の知見を活用しながら、組織や社会全体にイノベーションをもたらす課題解決型人材の育成を目指す講義。

⑦医療イノベーション経営

22.5時間

医療イノベーション経営では、医療組織の経営戦略や経営資源の開発、マーケティング、医療の質の確保などについて学ぶ。受講生が履修しやすいよう、夏季土日等の休日に集中講義として実施する。

⑧医療経営分析論

22.5時間

外部環境の補正による病床の将来推計と病院内外のデータ解析を通じてエビデンスに基づく医療経営管理の理解を深めることをめざす講義。

⑨ヘルス情報マネジメント

22.5時間

ヘルスケアに関するさまざまなリアルワールドデータを用いて、「情報をつくる、つかう、伝える」ことを演習も交えながら学ぶ機会を提供します。

⑩サービス・サイエンス/ サービス・マネジメント

22.5時間

医療を含む様々な社会・経済活動を、サービスという視点から捉え直し、現状のあり方を解きほぐす分析の枠組みや、新たなサービスをデザインし実践するための方法論を学びます。

⑪ヘルスケア・エコノミクス/ ヘルスケア・ポリシー

22.5時間

保健・医療・介護の課題に対する経済学的なアプローチへの理解を深めることをめざす講義。経済学の理論と実証研究をバランス良く学びます。

履修生の声 令和4年度履修生



横浜市立大学附属
市民総合医療センター
副病院長/
生殖医療センター部長
湯村 寧

副病院長として病院経営、働き方改革などの諸問題を論じるのに必要な知識をえるために参加させていただきました。講義は対話を重視するディスカッション形式のものがとても多く、いろいろな施設からいらっしゃる様々な方々の考えを吸収することができました。データのみかた、経営の基礎知識など多くのことを学びましたが、私にとってはそれらの考え方方に触れられたのが最も大きな収穫だったと思っています。ここで学んだものをこれから病院運営・自分の今後の医師人生に生かしていきたいと思います。



横浜市立大学附属
市民総合医療センター
感染制御部課長
兼看護部副看護部長
十文字 美代子

授業全般ではディスカッションが活発に行われ、自信のなさから気後れすることもありましたが、後藤病院長伝授の「勇気」「礼節」「寛容」をもって臨み、クラスメイトの意見や時々一緒にした大学生生の優秀さに感嘆しながら、自分にない視点や発想を得ることができました。年間予定が示されるのでWLBを実現しながら学べますし、特別研究は講師から手厚い指導をいただけます。経営課題の解決に取り組みたい方は本プログラムへGO！



医療法人徳洲会
湘南鎌倉総合病院
事務長
芦原 教之

病院経営において、経験値に頼る傾向がみられますが、この度の受講で学問的要素の側面からの課題解決方式について学ぶことができました。さらに、ケーススタディにおいて異業種の取り組み事例について考え、深めることで新しい発見を多く得ることができました。病院経営のイノベーションには、論理的思考と共に非論理的思考も必要であることを学び得ることができましたので、今後の病院経営に役立てていきたいと思います。

本講受講者の履修をサポートする

e-learning、コーディネーターのサポート

本学の両附属病院等の現場を活かし、履修生が現場で感じている問題を分析・研究することで、病院経営を実践的に学ぶことができるような様々なサポートを行なっています。履修生にとって受講しやすい環境を整えていきます。

■ e-learning

通学して講義を受ける時間の無い方、社会人の方へのサポートとして、講義の一部をe-learningシステムで運用しています。「医療経営学」「医療政策学」の講座動画・テキストを配信するとともに、テスト等による進捗管理を行います。履修者はすべてのコンテンツを視聴可能です。



e-learningシステム画面

■ コーディネーターのサポート

履修生は、必修科目「特別研究」において、各自で決めたテーマで研究を進めます。最終的にはその内容をまとめ報告会で発表する必要があります。コーディネーターは、研究テーマの設定、調査方法や、研究内容のプラスアップ等、全面的に履修生の研究活動をサポートしてくれます。

Pick UP

教育訓練給付制度のご案内

本プログラムが、厚生労働省の専門実践教育訓練給付制度※の指定講座となりました。支給要件を満たす方が所定の申請を行うことで、本学に支払う教育訓練経費(受講料)の50%～70%を受給することができます。

※教育訓練給付制度とは、働く方々の主体的な能力開発やキャリア形成を支援し、雇用の安定と就職の促進を図ることを目的として、厚生労働大臣が指定する教育訓練を修了した際に、受講費用の一部が支給されるものです。うち専門実践教育訓練では、特に労働者の中長期的キャリア形成に資する教育訓練が対象となり、補助割合も高めに設定されています。

QRコードをかざすと
WEBサイトで
詳細をご覧いただけます



～さらに学びを深めるために～

国際マネジメント研究科博士前期課程

ソーシャル・イノベーション修士(経営学)プログラム(SIMBA)のご案内

YCU病院経営プログラムでの学びをさらに発展させたい方のために、国際マネジメント研究科にソーシャル・イノベーション修士(経営学)プログラムSIMBAをご用意しています。

本プログラムは、国際マネジメント研究科で推進してきたサービス・サイエンス研究プログラムを発展させ、特にデータに基づく経営管理手法を用いて社会課題解決をめざす社会人を対象として、経営学・経済学の知識やスキルの習得を目指すものです。社会課題の領域には、一般的なビジネス課題とともに、ヘルス領域、社会福祉領域、その他の公共サービス領域など多数が考えられます。これらの社会的な諸課題に対してデータに基づく経営管理手法のスキルを活かし、地域社会で活躍する修士(経営学)人材を育成します。

※YCU病院経営プログラムで履修する選択科目の一部が申請によりSIMBAプログラムの一部として認められる場合があります。



医療経営・政策研究会

- 研究会の目的**
- ①医療福祉の財務情報・非財務情報に関する実証的研究を行い、研究成果を効果的・効率的な経営や政策に生かすこと
 - ②行政(横浜市)・事業者・研究者による交流を促進し、知見を深めること

開催の目的 病院・医療従事者の労働環境と生産性について議論し、これからの病院経営のあり方について検討すること

第15回 医療経営・政策研究会

ハイブリッド開催

横浜市立大学 大学院データサイエンス研究科准教授 黒木 淳

日 程 令和4年7月17日(日)

参 加 者 55名

開催時間 10:00～12:30

10:10～11:10 「循環器診療における地域医療構想～迫られる循環器医療の変革～」

松澤 泰志氏(横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター 講師)

11:20～12:20 「先天性風疹症候群を防ぐために「ワクチンで予防可能なウイルス感染症の今」」

倉澤 健太郎氏(横浜市立大学 医学部医学科産婦人科学 准教授)

12:20～ 総括＆ディスカッション

第16回 医療経営・政策研究会

ハイブリッド開催

横浜市立大学 大学院データサイエンス研究科准教授 黒木 淳

日 程 令和5年2月5日(日)

参 加 者 72名

開催時間 10:00～12:30

10:10～11:10 「近年の政策動向を踏まえた病院経営分析の視点」

上村 知宏氏(独立行政法人福祉医療機構 福祉医療貸付部福祉審査課 課長代理)

11:20～12:20 「行政と連携した慢性腎臓病対策・診療連携体制構築についての費用効果的視点を踏まえての提案」

田村 功一先生(横浜市立大学医学部 循環器・腎臓・高血圧内科学 主任教授)

横浜市立大学附属病院 副病院長 横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科 博士課程前期(社会人特別選抜)大学院生

12:20～ 総括＆ディスカッション

(ディスカッションが尽きたところで終了)

公開シンポジウム

日程 令和4年8月28日(日)

公開シンポジウム

10:00～11:30

「コロナ対策と今後の地域医療連携のあり方」

講演

1.「横浜はじめ病院開設の経緯、取り組みと貢献」

新納 憲司氏

特定医療法人財団慈啓会理事長、横浜はじめ病院長
横浜市病院協会常任理事

2.「医療従事者としてのコロナ政策への貢献」

山城 恒雄氏

横浜市立大学医学部放射線診断学准教授
YCU病院経営プログラム修了生
横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科SIMBA2期生

3.「地域医療連携推進法人横浜医療連携ネットワークと今後の地域医療連携」

池島 秀明氏

医療法人社団鵬友会理事長、
横浜市病院協会常任理事
横浜市医師会常任理事、
YCU病院経営プログラム修了生



SIMBA進学者の声

自分の研究テーマとして1990年に入学した本学大学院医学研究科で開始し今も継続している基礎研究・トランスレーショナル研究・臨床研究に加えまして、最近では『大学病院経営と地域医療貢献に資する医療政策経済学と包括医療制度の理解と活用』にも興味を持ちました。そこで、まずはYCU病院経営プログラムで1年間勉強をさせていただき診療情報管理士の資格を取得しました。続いてのSIMBAでの2年間では、「行政とも連携してのデータ駆動型の腎疾患対策を横浜で展開したい」との思いで、国際マネジメント専攻 原 広司先生、ヘルスデータサイエンス専攻 黒木 淳先生をはじめ多くの先生方にご指導いただき、楽しく充実した修行をさせていただき、新たな局面へとステップすることができそうな予感です!みなさま、是非、YCU病院経営プログラム、そしてSIMBAをご体験ください!!



横浜市立大学
循環器・腎臓・高血圧内科学教室主任教授
横浜市立大学附属病院副病院長
YCU病院経営プログラム3期生
田村 功一

福浦キャンパス・附属病院

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9



金沢八景キャンパス

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2



附属市民総合医療センター

〒232-0024 横浜市南区浦舟町4-57

